

顧客の立場から ベストプラクティスを追求する保険仲立人

「現状と将来への期待」

顧客ニーズを形に 再保険活用、組織作りなど 多岐にわたる策を提供

基本姿勢はお客様のニ

ジャパン・リスク・スペシャリスト株式会社として業務開始は2009年4月1日です。エーオンジャパン(当時)の中で共済や少額短期保険会社の再保険契約を仲介する部署が弊社の前身です。その再保険担当部署が保険仲立人として、2006年に別法人、エーオン・リスク・スペシャリストとして設立され、仲立人認可を得ています。しかしながら、米國本社がアフィニティ分野からの撤退を決めたため、新たな株主の元、同業務を引き継ぐ弊社が設立されました。

弊社の業務の柱は3つあります。

1. 再保険手配

共済、少額短期保険会社を中心とする再保険仲介を行っています。

■業務内容

業務内容は設立当時から拡大しておりますが、核となる部分は変わりません。

アフィニティという言葉は耳慣れないかと思いますが、我われは親和性をもった集団と解釈しています。従業員の福利厚生や組合員のための補償提供など、多くの場で活用されています。弊社の核となる部分はアフィニティグループへの再保険手配を中心とした業務支援です。

ティンク

現在、さまざまな業種の事業会社が傘下に保険会社を持つことに関心をもち、120社を超える少額短期保険会社が設立されています。業法上、設立は登録とされていますが、登録が完了するまで監督庁と何度も協議を重ねる必要があります。

また、あまり知られていませんが、中小企業法に準拠した共済制度、保険業法の適用外の共済制度の設立支援も行っており、お客様のニーズに沿った組織作りのご提案を行います。

海外の再保険会社の中には、少額短期保険会社や一部の大手共済以外の共済組織が日本の保険市場に存在することを知らない会社が多々あります。また求められる再保険契約内容は損害保険会社の内容と大きく異なるため、引受け再保険会社が限られています。また、弊社はロンドンに持つ再保険ファシリティを活用し、お客様のニーズに即した柔軟な対応が可能です。

2. 共済、少額短期保険会社設立、運営コンサル

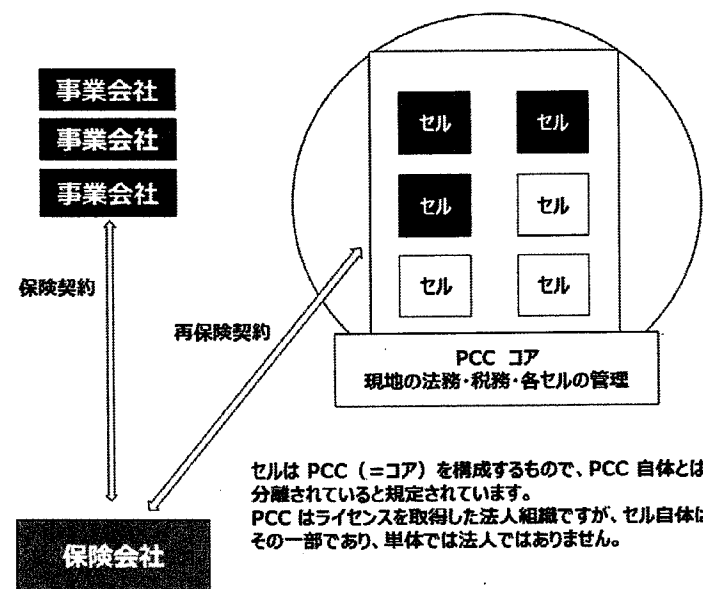
3. キャプティブ設立、運営支援
キャプティブの活用

は、甚大な損害が頻発し、重要度を増しています。

ハワイ、ラプアン、シンガポール、ガンジーなど各ドミナイルにあるキャプティブマネジメント会社と連携し、設立、運営の支援を行っています。保険仲立人として保険の元受け契約、キャプティブへの出再、またキャプティブからの再々保険手配も弊社で行えますので、ワンストップでサービス提供が可能です。

また2019年にマレーシアの金融特区であるラプアンに Protected Cell Company、PCC(保護セルキャプティブ)、Green Oak を設立し、現地で弊社の社員が業務を行っています。

PCC (保護セルキャプティブ)



セルは PCC (=コア) を構成するもので、PCC 自体とは分離されていると規定されています。PCC はライセンスを取得した法人組織ですが、セル自体はその一部であり、単体では法人ではありません。

これは、大きな損害が頻発し、重要度を増しています。ハワイ、ラプアン、シンガポール、ガンジーなど各ドミナイルにあるキャプティブマネジメント会社と連携し、設立、運営の支援を行っています。保険仲立人として保険の元受け契約、キャプティブへの出再、またキャプティブからの再々保険手配も弊社で行えますので、ワンストップでサービス提供が可能です。また2019年にマレーシアの金融特区であるラプアンに Protected Cell Company、PCC(保護セルキャプティブ)、Green Oak を設立し、現地で弊社の社員が業務を行っています。これは、大きな損害が頻発し、重要度を増しています。キャプティブの利用は、一握りの大手企業だけのものではありません。資本力が強固でなければ、リスクに対する備えの必要性は高いのではありません。PCCをご利用いただくことで、キャプティブ機能を広く活用いただけます。ここ数年事故はなかったか「という理由で保険の更改を見送ろうと考える企業があります。しかし、キャプティブを利用すれば掛け捨てだった保険料を再保険の形でキャプティブに留保でき、無駄なく保険をかけることができます。どのようリスクを管理するのか、また保険商品を利用し、事業の強化が図れないか、見直されたいかがでしょうか。ざっくりとしたイメージからでもソリューションにつながることはあるはず